

インド・ブータン農産物物流視察【番外編②】

インドの低温物流会社の動向は…

急拡大している? コールドチェーン市場

インドでは公表されている統計上では急速にコールドチェーンの整備が進んでいることになっている。I A R W (International Association of Refrigerated Warehouses) の調べによると、2008年から10年かけてインドでは冷蔵倉庫の所管容積が一気に拡大し、14年には2位のアメリカ、3位の中国を抜いて世界でトップに躍り出た。18年には1億5000万m³超の規模となり、これは日本の約4倍に相当する。インドの調査会社CRISIL Researchによるところ、コールドチェーンの市場規模は年13～15%上昇し、17年の2480億ルピーが22年には4720億ルピーまで拡大するとしている。こうした数字とは裏腹に、冷蔵倉庫は足りていないのが現状で、だからこそ農産物の40%が廃棄されているというわけだ。

ポートアルブルコールドストレージも成長事業か

インド・ブータン農産物物流視察の視察団では、インドの低温物流会社Crystal Logisticsのコルカタにある冷凍倉庫を見学した。移動式ラックも導入され、衛生管理も配慮された近代的な施設だ。同社は外資系のチヨコレートも取り扱っており、

川崎陸送が得意とする菓子の流通加工のノウハウに関心を持つことから、コンサルティングのオファーがあつたという。

Crystal Logisticsは倉庫業、輸送業のほか海産物などの瞬間に連絡も可能。現在100基をつくり、品質意識の高い食品メスも手掛ける。海産物の保管を主体としていたが、相対的に比率が低下し、スキムミルク、チヨコレート、乳製品のほか農産物の取り扱いも増えてきている。冷凍・冷蔵車約100台を保有しているが、近年は倉庫業や3PLに注力。倉庫は現在、5カ所だが、さらに4カ所を整備中だ。

同社ではデンマークの会社が、コールドチェーンの市場規模は年13～15%上昇し、17年の2480億ルピーが22年には4720億ルピーまで拡大するとしている。こうした数字とは裏腹に、冷蔵倉庫は足りていないのが現状で、だからこそ農産物の40%が廃棄されているというわけだ。



ポートアルブルコールドストレージ

開発したマイナス40℃対応のコンテナタイプのポートアルブルコールドストレージのリースも展開

し、成長事業のひとつ。どこにでも置くことができ、コンテナの連結も可能。現在100基を保有し、品質意識の高い食品メスも手掛ける。海産物の保管を1カートのコンサルを請け負う中で、コンテナの利用を提案し、地元の農家向には安価なコンテナも供給している。また、農家のレンタルの場合、レンタル料は保管していた農産物が売れた後に一括支払いというユニークな精算方法を導入している。

同社によると、今後の低温物流事業の成長のカタゴリーはチヨコレート、グロサリー、外食店、アイスクリームなど。所得の向上により無農薬野菜の保管ニーズも出てきているそう。なお、同社では常温貨物を対象に3PL事業も手掛ける。3PL事業では外部倉庫も活用し、利益率は20%程度だという。

